

## 9 学生事務局

### 職員総括

今年度は、ボランティアセンター活動報告会の運営だけでなく、学生メンバー全体の活性化を担う役割へと機能を強化し、新たなるイベントを実施した。特に評価したい点は、行事の円滑な実施・運営のみならず、企画や準備にあたって、情報収集や知識の習得に励み、質を向上させたことである。

横浜キャンパスでの防災訓練では、従来、教職員のみで実施していたところから、ボランティアセンターの学生メンバー、並びに公募した学生も参加できるようにした。横浜キャンパス内の非常時の備蓄品の状況や避難時の注意点など学内管理部門にインタビューを実施し、防災時の注意事項をまとめた。これを参加学生へ共有し、学生の防災意識の向上に努めた。

学生メンバー全体勉強会では、防災士講座に参加した事務局メンバーが、そこで学んだグループワークの手法を用いた。自身が所属する学生セクションの活動で忙しいなかでも、しっかりイベントの準備・運営に取り組んだことが、イベントの成功につながったと感じる。これらの活動により、学生事務局の存在が、学生メンバーのなかでも少しずつ認知された1年であった。次年度以降も、セクションを越えた交流を増加させ、多くの仲間とともに活動できるボランティアセンターになるべく歩を進めて欲しい。

なお、学生メンバーオリエンテーションにご協力くださった社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会の方々や、とつか区民活動センターの方々、ボランティアセンター活動報告会にお越し下さった来賓の方々にこの場を借りて感謝を申し上げたい。

(職員 松本剛)

### 学生事務局長総括

学生事務局とは、明治学院大学ボランティアセンターで活動する学生メンバーに、所属するセクションの枠を越えたつながりを作り、ともにボランティアをしてもらうようにサポートをする組織である。つながりを作ることで、他のセクションの活動にも関心を持ち、ともに助け合いながらボランティアをすることで、より幅広い学びを得ることができる。そのため、2017年度はボランティアセンター活動報告会に加えて、従来は職員主体で行われていた横浜キャンパス防災訓練への協働・参画、事務局メンバー企画の勉強会の開催を行った。事務局長として今年の活動には、よかった点と改善することのできる点があったと考える。よかった点は、去年は各セクションの活動が忙しいこともあり、自分たちで企画する活動に至らなかったが、今年は防災訓練での学びをより深めるために、7月にクロスロードを使った勉強会を午前中に行い、午後に親睦会を開くことができたことである。改善することのできる点は、勉強会や普段から出ている他のセクションのつながり、連携といったものがあまりないという意見に対し、一つの企画しか行うことができなかつたことである。来年度は、まずセクションの結束力を高め、セクションを越えた活動をするためにも、交流する機会や事務局の全セクション合同で行う企画を増やしてほしいと考える。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

## ●2017年度「学生事務局」の主な活動

日にち	内容（参加人数）
5/1（月）	横浜キャンパス防災訓練&学生メンバーオリエンテーション （学生メンバー53名、新1年生48名、教職員・スタッフ12名）
7/29（土）	学生メンバー全体勉強会（学生メンバー57名）
11/11（土）	ボランティアセンター活動報告会 （学生メンバー95名、来賓4名、教職員・スタッフ14名）

## ◇横浜キャンパス防災訓練

目的	横浜キャンパス防災訓練/学生メンバーオリエンテーション
日時、場所	2017年5月1日（月）9：30～16：30、横浜キャンパス 4・5・6・7・9・10号館
参加人数	大学生と教職員含めて約150名（全学）

## 実施概要

大学にいるときに大規模災害が発生したときに備え、防災訓練を実施した。この訓練は、大学構内の避難所を理解するためのものである。その後、学生メンバーによる防災講座や非常食の試食体験もあった。

午後にはボランティアセンターの学生メンバー全体のオリエンテーションである「学生メンバーオリエンテーション」を実施。とつか区民活動センターと戸塚区社会福祉協議会の方々による「ボランティア活動のいろは」や、本学ボランティアコーディネーターによる「ボランティアセンターの活用法」のお話があった。最後には交流会を設け、新入生が希望セクションの先輩と話せる貴重な時間となった。

## 感想・活動を通して得た学び

今回の避難訓練では、想定以上に多くの人数が参加したため、本格的なものとなった。また、避難訓練をしたことで実際にどのように行動すればよいかを身をもって知ることができたため、防災意識の向上につながった。また、防災講座では、クイズ大会を開催した。津波関連の問題が多かったため、今回はバリエーションを増やすとよりよくなるだろう。

学生メンバーオリエンテーションではボランティア活動について改めて考え直す機会となった。交流会では、新入生が名刺カードを希望セクションの先輩に渡すといった仕組みにしたことにより、新入生が気軽に話しかけやすい雰囲気となっていた。

## 今後に向けて

今回の大規模な防災訓練は、多くの学生の防災意識を高めることにつながった。身近な大学の構内で行ったことにより、災害が起こったときにどうすればよいか、改めて考えるきっかけとなったとの声が多々あった。今回は参加学生がボランティアセンターの学生メンバーが中心であったため、今後は他の学生も巻き込んでいきたいと考える。

学生メンバーオリエンテーションの交流会では、セクションごとに新入生と積極的にコミュニケーションを取ることで、新入生獲得につながった。次回も、今回の反省を生かし、より新入生と学生メンバー双方が親しみやすい交流会を企画していきたい。

（学生メンバー 法学部政治学科）

## ◇学生メンバー全体勉強会

目的	防災に対する知識を深めると同時に、学生メンバー間の親睦を深める
日時、場所	2017年7月29日(土) 10:00~12:00、横浜キャンパス 430 教室
参加人数	学生メンバー57名

## 実施概要

学生事務局メンバーが事前に横浜管理課へ防災グッズ等の取材を行い、それらを参加学生に講義・クイズ形式で伝えた。その後は、実際に何かが起きたと想定してどう行動するかを YES/NO で表示し、意見を出し合う「クロスロード」というカードを使用して、ゲーム形式のグループワークを行った。グループは普段さまざまな活動をしているセクションの違うメンバーで構成し、今までの経験や自分の考えを話し合う場となった。また、勉強会後には懇親会も行い、たくさんの人と話せる場を設けた。



## 感想・活動を通して得た学び

グループワークはゲーム形式にしたため、堅苦しくなく楽しい雰囲気で行うことができ、セクションを越えた交流ができたのではないかと感じる。「クロスロード」では難しい選択を迫られることもあったが、自ら考えその意見を共有したり他の人の意見も聞くことで、新しい発見や知識を深めることにつながった。学生メンバー全体での勉強会や懇親会は初めての試みだったため、不安な点もあったが、参加学生、学生事務局メンバーともに充実した時間を得られたと思う。

## 今後に向けて

今回の経験から、学生メンバー全体でのイベントを行い交流を深めることの大切さに気づいたし、セクションを越えた交流をしていきたいという気持ちを持つ人も多かった。今後もさまざまな形でこのようなイベントを行い、学生メンバー同士のつながりを作っていきたいと思う。しかし、当日までの準備がギリギリになってしまったり、連絡が思うように進まなかったりしてしまったため、早めの計画や連絡の方法などを改善して取り組んでいきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

## ◇2017年度ボランティアセンター活動報告会

目的	ボランティアセンターに所属する各セクションが一堂に会し、年間の活動を報告する
日時、場所	2017年11月11日(土) 9:00~11:30、白金キャンパス 3101 教室
参加人数	学生メンバー95名、来賓4名、センター教職員・スタッフ14名

## 実施概要

2017年度の明治学院大学ボランティアセンターの学生メンバーは、「地域活動(横浜・白金)」「明学レッドクロス」「『Do for Smile@東日本』プロジェクト(陸前高田・吉里吉里)」「MGパール」「海外プログラム事業部」「SHIP」の8セクションと私たち「学生事務局」のいずれかのセクションに所属し、

日々活動をしている。毎年秋に開催されるこの報告会では、普段なかなかお互いの活動を共有することが難しい学生メンバーたちが、それぞれ1年間の活動の成果や課題を発表し、来年度に向けた決意の場として大きな意味を成している。

### 感想・活動を通して得た学び

各セッション8分の発表と5分の質疑応答という短い時間ではあったが、工夫の凝らされたパワーポイントと堂々とした発表からは、それぞれ1年間の活動で得た力を感じることができ、同じ学生メンバーとして、大変刺激になる時間となった。また、日頃の活動でお世話になっている先生方や地域の方からの質問や意見は、専門分野や地域住民ならではの視点からの指摘が多くあり、学生にとっては来年度活動するうえで、非常に参考になったとの感想が聞かれた会となった。

### 今後に向けて

来年度は、明治学院大学のボランティアセンターが創設されて20周年だ。

今年度はセッションの垣根を越えた活動を数回行うことができ、これは一つの成果として私たちの力となったが、来年度はさらに力を合わせ、より多くの方々に「明学のボランティア」を知ってもらいたい。そのためには、いつも私たちのことを見守り支えてくださる企業や運営委員、また学生ボランティアサークルのメンバーや他大学の学生の力も借りながら、ともに20周年目も、明治学院大学のボランティアセンターを盛り上げていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)